

【事業の経緯】

別添資料1

河川-1 鹿尾川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工 期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (新規評価なし)	—	S49	—	—	—	
第1回審議 (H10)	事業採択後 10年経過 (事業再評価 制度開始)	S49	H19	52.0	1.25	改修延長L=3,870m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第2回審議 (H15)	再評価後 5年経過	S49	H24	52.0	1.73	改修延長L=3,870m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第3回審議 (H20)	再評価後 5年経過	S49	H29	52.0	1.90	改修延長L=3,870m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第4回審議 (H25)	再評価後 5年経過	S49	H29	52.0	1.41	改修延長L=3,870m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第5回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	S49	H38	52.0	1.42	改修延長L=3,870m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等

※H23年度の委員会の中で、再評価・事後評価の経緯が求められたことにより、今年度より様式が追加になっています。

※今回は第1回審議の場合も、「提出もれ」を防ぐ為に、提出をお願いします。

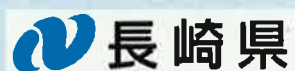
チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	鹿尾川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口～小ヶ倉ダム下流地点 L=3,870m
再評価の実施理由		再評価後5年経過			
未着工或いは事業が長期間要している理由		改修計画の見直しについて、住民懇談会との合意形成に期間を要したため			
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等			
	上位計画における位置づけ	長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備などの防災対策の推進」			
	目標流量	230m <sup>3</sup> /s	治水安全度		1/100
事業の進捗状況	事業採択年	昭和49年度	用地着手年	昭和50年度	工事着手年 昭和50年度
	全体事業費 (内用地費)	52.0億円 12.5億円	投資事業費 (内用地費)	45.8億円 11.3億円	(進捗率88.1%) (進捗率90.4%)
	事業進捗状況	鹿尾ダム下流部は1/800付近下流の拡幅工事完了。今後環境調査を踏まえ治水安全度向上を図る。 鹿尾ダム上流部は改修延長約L=930mのうち約81%区間の改修が完了している。			
	一連の整備効果の発現状況	鹿尾ダム下流の引堤により家屋密集地の安全度が向上している。河床掘削を継続して実施することで計画の治水安全度が確保可能。 鹿尾ダム上流の改修済み区間は計画治水安全度の100%を確保できている。			
事業を巡る社会情勢等の変化	事業目的に関する諸状況	現状での課題	事業を促進し、早期完成を目指す。(平成38年度完成予定)		
		災害発生時影響(想定氾濫区域内)			
		①浸水戸数	:217戸		
		②農地浸水面積	:— ha		
		③重要な公共施設等	:市立戸町中学校, 三和町公民館, 新戸町公民館, 新戸町簡易郵便局		
	④災害弱者関連施設	:—			
	⑤その他	:県道小ヶ倉田上線			
	過去の災害実績				
	①主な被災年	:昭和47年、昭和57年			
	②最大浸水戸数	:987戸 (昭和57年)			
③最大農地浸水面積	:3.0 ha (昭和47年)				
④重要な公共施設等	:—				
⑤災害弱者関連施設	:—				
⑥その他	:—				
地域の状況	災害発生の危険度				
	①改修目標流量に対する現況流下能力の割合	:約20%			
	②現況の治水安全度	:1/2程度			
	①地域開発の状況:	過去に中流域で大規模な宅地開発(ダイヤモンド)が行われた。			
	②地域の協力体制:	『三和町ふるさとづくり委員会』がH13.6.1に設立され、H14.9.9には長崎県の河川愛護団体へ登録し、河川清掃など活発な活動が行われている。			
③関連事業との整合性の変化:	特になし。				
④地域の事業に対する社会的評価:	洪水氾濫被害に対する安全確保のため、改修事業が望まれている。				
⑤事業の状況:	環境調査及び地域住民との合意形成に時間を要するため、平成38年度の完成予定となった。				
費用対効果分析	治水経済調査マニュアル(案)に基づき分析				
	総便益(B):	21,784.8百万円			
	総費用(C):	15,304.7百万円			
	B/C= 1.42				
再評価による今後の対応方針		事業継続			

# 平成30年度 長崎県公共事業評価監視委員会

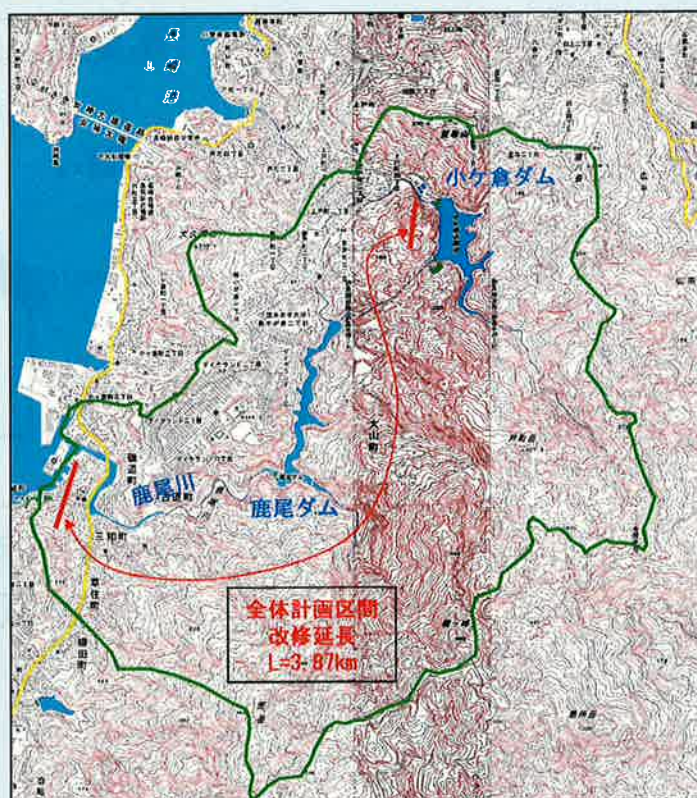
## 再評価対象事業

### 河川－1 総合流域防災事業 鹿尾川



1

## 事業概要



2

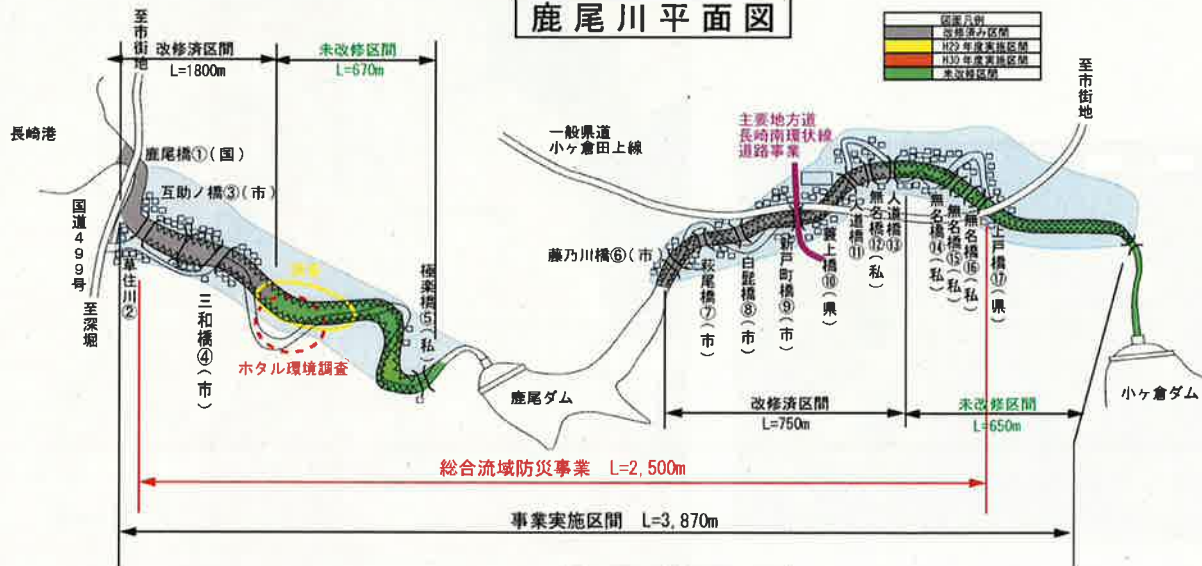
# 事業概要



3

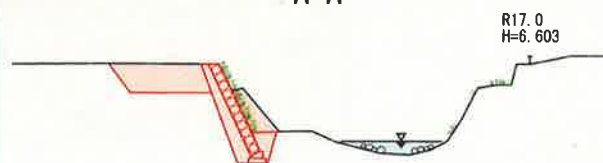
# 事業概要

鹿尾川平面図



標準横断面図

A-A



4

## 過去の被災写真

### 被災状況

昭和57年7月23日洪水

水道局跡地付近



鳴瀧山観音寺前広場水害後  
(正面が鳴瀧山観音寺)



5

## 過去の被災記録

昭和48年5月7日洪水

最大時間雨量 : 67mm  
日雨量 : 208mm

浸水面積	浸水家屋	床下浸水	床上浸水	その他
12ha	395戸	249戸	147戸	—

昭和57年7月23日洪水

最大時間雨量 : 127.5mm  
日雨量 : 527mm

浸水面積	浸水家屋	床下浸水	床上浸水	その他
73.4ha	987戸	208戸	763戸	16戸

6

## 現況写真

### 施工済区間

下流区間：三和橋上流



下流区間：1/700付近



上流区間：新戸町橋下流



上流区間：人道橋下流



## 現況写真

### 未改修区間

下流区間：極楽橋下流側



下流区間：極楽橋上流側



上流区間：木タル広場上流側



上流区間：上戸橋下流



## 再評価に至った理由

下流区間：1K700上流

【完了工期】H29(前回)→ H38年(変更)



【理由】  
・未施工区間は、ホタル生息区域であり自然環境が豊かであることから、ホタル、水性生物、樹木等の環境保全対策が必要な区間である。したがって、環境保全のための環境調査及び地域住民との合意形成に期間を要するため。

上流区間：ホタル広場付近



9

## 費用対効果分析

【B/C】1.41(前回)→ 1.42(現行)

### 【プラス要因】

- ・浸水区域内資産額（家屋資産の評価単価の増）の増加

環境調査及び地域住民との合意形成に時間を要し事業期間が増加し、完成年度が平成38年度に延長となるが、依然投資効果は大きい

対応方針  
(原案)



継続

【事業の経緯】

別添資料1

河川-2 中島川広域河川改修事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H10)	事業採択後 10年経過 (事業再評価 制度開始)	S63	H18	65.0	3.07	改修延長L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、 左岸バイパス等
第2回審議 (H15)	再評価後 5年経過	S63	H19	78.0	6.63	改修延長L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、 左岸バイパス等
第3回審議 (H20)	再評価後 5年経過	S63	H24	98.4	5.83	改修延長L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、 左岸バイパス等
第4回審議 (H25)	再評価後 5年経過	S63	H29	98.4	5.60	改修延長L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、 左岸バイパス等
第5回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	S63	H34	98.4	5.32	改修延長L=1,750m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、 左岸バイパス等

※H23年度の委員会の中で、再評価・事後評価の経緯が求められたことにより、今年度より様式が追加になっています。

※今回が第1回審議の場合も、「提出もれ」を防ぐ為に、提出をお願いします。



チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	中島川	事業名	広域河川改修	事業区間	河口～西山川合流点 L=1.750m	
再評価の実施理由			再評価後5年経過			
未着工或いは事業が長期間要している理由			出島表門橋事業との調整や出島対岸の石積護岸の施工において発掘調査と石積護岸施工を並行して行う必要があること、及び歴史的・文化的価値の高い石積施工に特別の配慮が必要なため			
事業内容	事業目的	洪水に対し安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する。				
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁、左岸バイパス等				
	上位計画における位置づけ	長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備などの防災対策の推進」				
	目標流量	490m <sup>3</sup> /s		治水安全度	S57災実績降雨(1/100年相当)	
事業の進捗状況	事業採拓年	昭和63年度	用地着手年	昭和63年度	工事着工年	昭和63年度
	全体事業費(内用地費)	98.4億円 (12.3億円)	投資事業費(内用地費)	96.6億円 (12.3億円) (進捗率98.2%) (進捗率100%)		
	事業進捗状況	床掘削以外はほぼ完成。				
	一連の整備効果の発現状況	全川において、目標流量の80%程度の流下能力を確保している。				
事業を巡る社会情勢等の変化	現況での課題	事業を促進し、早期完成を目指す。(平成34年度完成予定)				
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)					
	①浸水戸数	: 13,634戸				
	②農地浸水面積	: -ha				
	③重要な公共施設等	: 市民会館、高等学校1、駐在所、バスターミナルビル、郵便局、集会所等				
	④災害弱者関連施設	: 小学校1、病院7、幼稚園及び保育園4				
	⑤その他	: 国道206号、324号、499号、路面電車、市道他、眼鏡橋、出島資料館等				
過去の災害実績						
①主な被災年	: 昭和57年					
②最大浸水戸数	: 17,909戸(昭和57年 中島川流域全体での床上浸水家屋)					
③最大農地浸水面積	: -ha					
④重要な公共施設等	: 市民会館、高等学校1、駐在所、バスターミナルビル、郵便局、集会所等					
⑤災害弱者関連施設	: 小学校1、病院7、幼稚園及び保育園4					
⑥その他	: 国道206号、324号、499号、路面電車、市道他、眼鏡橋					
災害発生の危険度						
①目標流量に対する現況流下能力の割合	: 目標流量に対し、約80%(河口から出島橋(No.420))					
②現況の治水安全度	: 1/50年確率規模相当					
地域の状況	①地域開発の状況 : 長崎市庁舎の移設、新大工町市街地再開発など、流域内での重要施設が増加している。史跡「出島和蘭商館跡」復元整備計画に基づく整備を長崎市が実施している。					
	②地域の協力体制 : 長崎市を主体として、協力を得ている。					
	③関連事業との整合性の変化: 関連事業である出島表門橋架替は、本事業と連携・調整を図り平成29年度に完成済み。					
	④地域の事業に対する社会的評価: 洪水氾濫被害に対する安全の確保のため、事業の早期完成が望まれている。					
	⑤事業の状況: 他事業との調整により、事業期間が平成34年に延びる。					
費用対効果分析	治水経済調査マニュアル(案)に基づき分析					
	総便益(b):	128,423百万円				
	総費用(c):	24,128百万円				
	b/c=	5.32				
再評価による今後の対応方針			事業継続			



平成30年度  
長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

河川-2 広域河川改修事業  
中島川

長崎県

1

位置図



2

# 事業概要



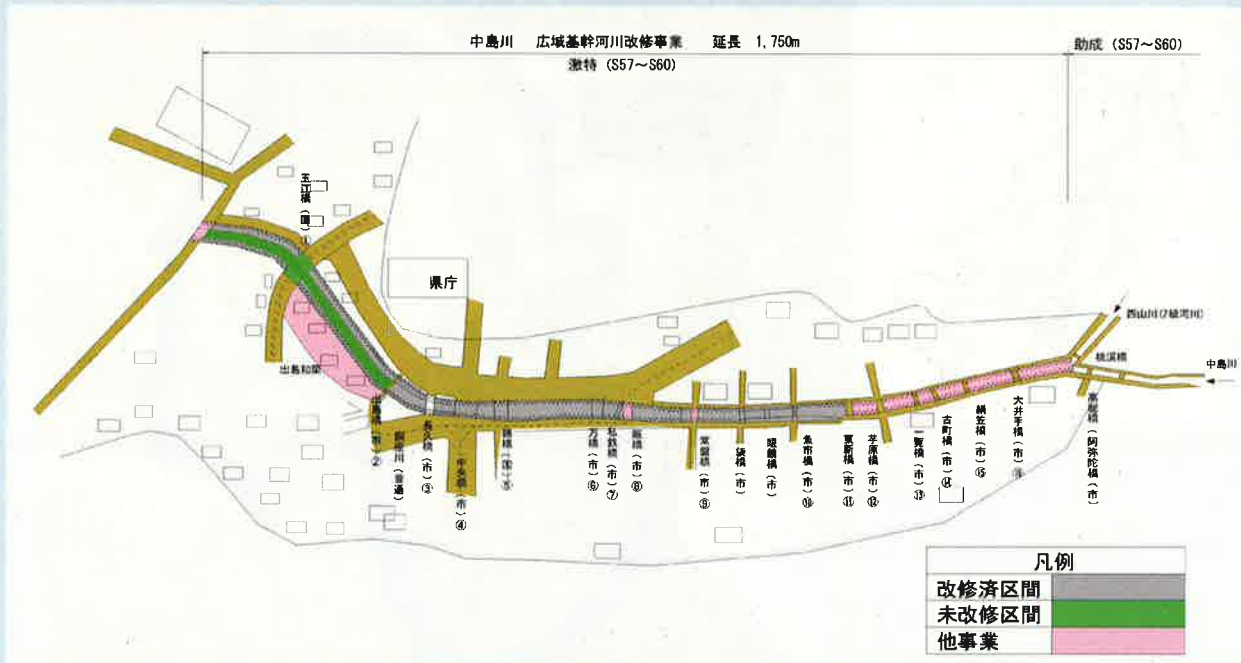
地理院地図globe

計画区間  
L=1.75 km

事業期間  
S63~H34

全体事業費  
9,840百万円

# 中島川平面図



# 事業の必要性

## 昭和57年7月23日洪水被害

最大時間雨量	日雨量	浸水面積	浸水被害家屋
127.5mm (長崎市)	527mm/日 (長崎市)	107ha	4,429戸



浜町アーケード被害状況



眼鏡橋被害状況

## 中島川の現況写真(1)



0/400 k m付近

# 中島川の現況写真(2)

お墨の美事



出島

旧県庁側

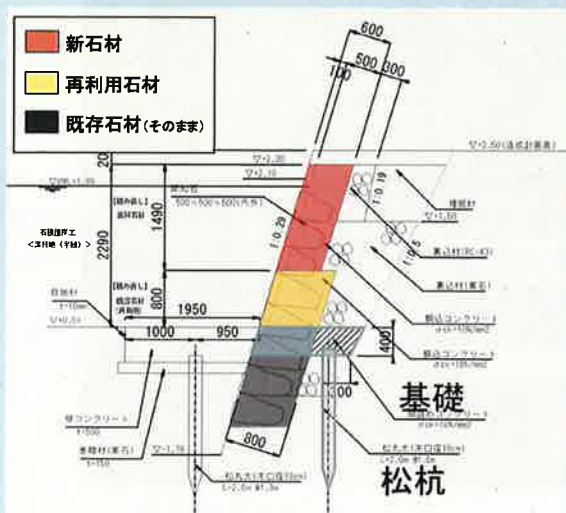
0/200km付近

## 再評価に至った理由

(1) 真尋感泉の汎高中

【完了工期】H29(前回) → H34年(変更)

出島表門橋事業との調整や出島対岸の石積護岸の施工において発掘調査と石積護岸施工を並行して行う必要があること、及び歴史的・文化的価値の高い石積施工に特別の配慮が必要なことから期間を要した。



歴史的石積護岸の施工

施工監理実施状況



完成した石積護岸

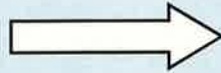
費用対効果分析

【B/C】5.60(前回)→ 5.32(今回)

〔マイナス要因〕

- ・工期の延長(他事業との調整)

対応方針  
(原案)



事業継続





【事業の経緯】

別添資料1

河川-3 江川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (新規評価なし)	—	H3	—	16.0	—	
第1回審議 (H12)	再評価後 10年経過	H3	—	16.0	6.16	改修延長L=1,006m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、 橋梁等
第2回審議 (H15)	河川整備計画 策定のため 委員会へ 審議結果報告	H3	H21	16.0	3.90	改修延長L=1,006m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、 橋梁等
第3回審議 (H20)	再評価後 5年経過	H3	H28	16.0	3.23	改修延長L=1,006m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、 橋梁等
第4回審議 (H25)	再評価後 5年経過	H3	H31	19.0	2.00	改修延長L=1,006m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、 橋梁等
第5回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	H3	H37	29.0	1.46	改修延長L=1,006m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、 橋梁等

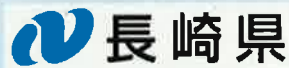
チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	江川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口～山川川合流点 L=1,006m	
再評価の実施理由		再評価後5年経過				
未着工或いは事業が長期間要している理由		川沿いに人家が連なっており、用地買収及び補償等の交渉に時間を要し、また、軟弱地盤対策工事が必要となったため。				
事業内容	事業目的	洪水を安全に流下させる河道整備を行い、河川の氾濫を防止する。				
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、橋梁等				
	上位計画における位置づけ	長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備などの防災対策の推進」				
	目標流量	85 m <sup>3</sup> /s	治水安全度		1/50	
事業の進捗状況	事業採択年	平成3年度	用地着手年	平成5年度	工事着手年	平成10年度
	全体事業費(内用地費)	29.0億円 2.7億円		投資事業費(内用地費)	20.9億円 (進捗率72.1%) 2.2億円 (進捗率81.5%)	
	事業進捗状況	国道499号下流区間が完了しており、上流の護岸、河床掘削、橋梁、堰が残っている。				
	一連の整備効果の発現状況	河口付近ネック部の改修により、河口部の流下能力不足は解消されている。				
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を目指す。(平成37年度完成予定)				
	災害発生時の影響(想定氾濫区域内)					
	① 浸水戸数:	86戸				
	② 農地浸水面積:	6.2ha				
	③ 重要な公共施設等:	NTT高浜分局, 高浜公民館				
	④ 災害弱者関連施設:	たかはまクリニック				
⑤ その他:	国道499号					
過去の災害実績						
① 主な被災年:	昭和57年、昭和58年、昭和60年、昭和62年、平成元年					
② 最大浸水戸数:	48戸(昭和57年)					
③ 最大農地浸水面積:	5.2ha(昭和57年)					
④ 重要な公共施設等:						
⑤ 災害弱者関連施設:						
⑥ その他:						
災害発生の危険度						
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合:	約15%					
② 現状の治水安全度:	1/2程度					
地域の状況	① 地域開発の状況	特に地域開発の計画はないが、道路整備が進み、長崎市中心部への通勤圏域となっていることから、今後住宅化が進むものと考えられる。				
	② 地域の協力体制	長崎市の協力により河川事業は進められている。				
	③ 関連事業との整合性の変化	特になし				
	④ 地域事業に対する社会的評価	洪水氾濫被害に対する安全確保のため、改修事業が望まれている。				
	⑤ 事業の状況	用地買収及び補償等の交渉に時間を要し、また、人家連坦地区及び交通利用確保のため、集中施工・投資が困難なことから事業期間が増加。軟弱地盤対策により、建設費が10億円増加する。				
	⑥ 費用対効果分析					
費用対効果分析	治水経済調査マニュアル(案)に基づいた分析 総便益(B): 6,435.1 百万円 総費用(C): 4,394.1 百万円  B/C=1.46					
再評価による今後の対応方針	事業継続					

# 平成30年度 長崎県公共事業評価監視委員会

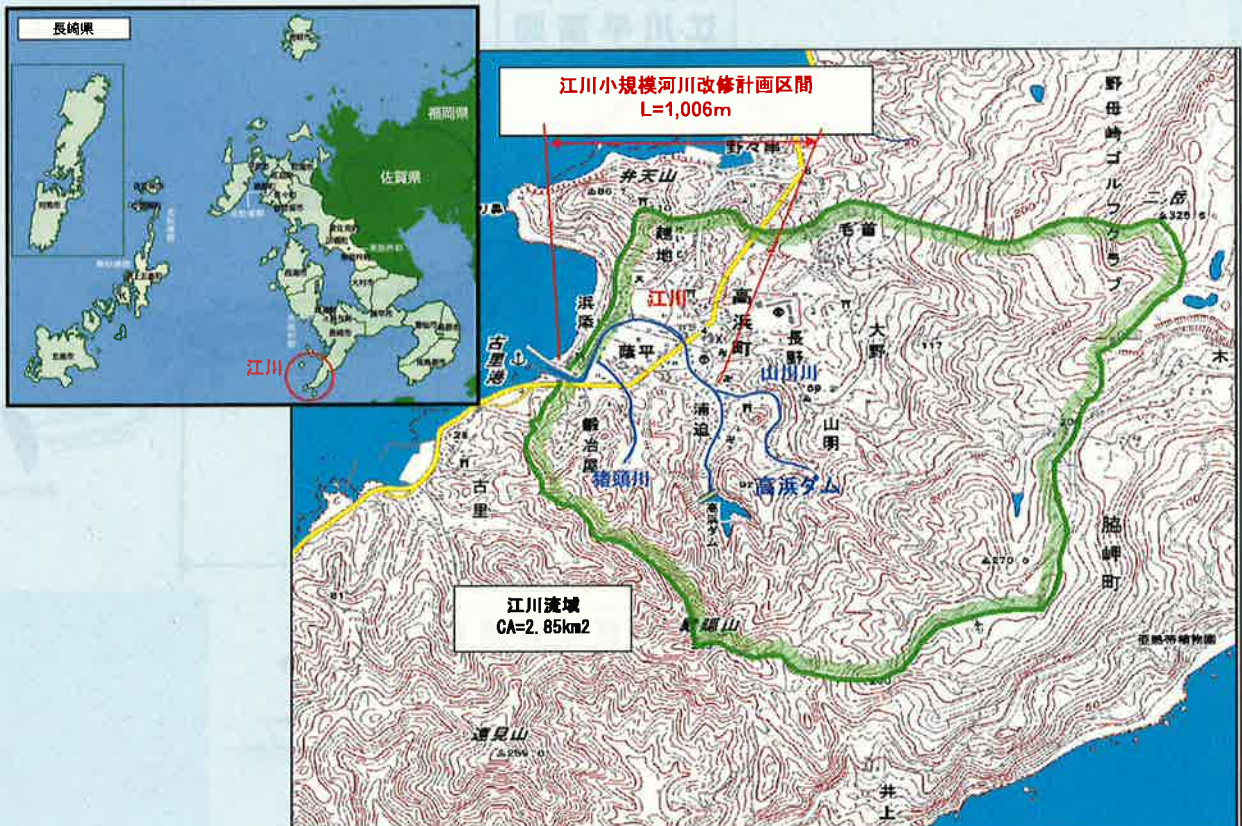
## 再評価対象事業

### 河川－3 総合流域防災事業 江川



1

## 位置図



2

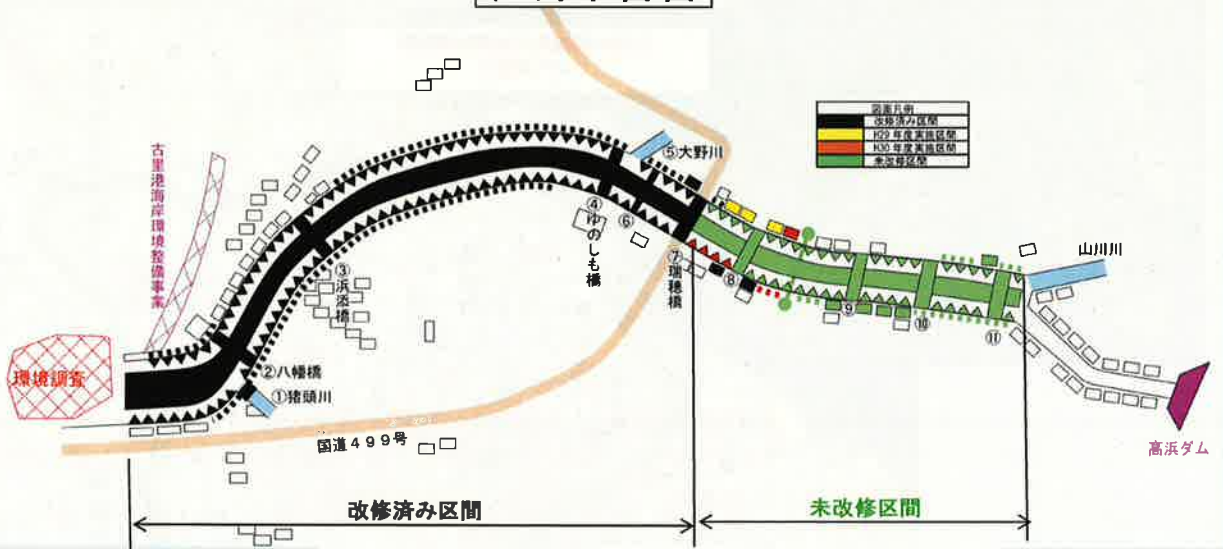
# 事業概要



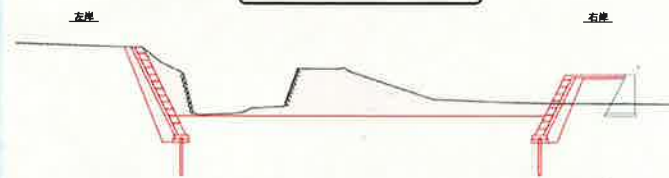
3

# 事業概要

## 江川平面図



## 標準横断面図



4

## 過去の被災写真

### 『昭和62年7月2日～3日の水害状況』



## 過去の被災記録

年月日	成因	被害概要	気象概要
昭和57年7月23日 ～ 昭和57年7月25日	豪雨	浸水戸数48戸・農地浸水5.2ha ・農業用施設3ヶ所・農産物168t ・林産施設4ヶ所 ・水産物その他18.4t ・道路103ヶ所・河川18ヶ所 ・水道施設5ヶ所・学校施設3ヶ所 ・崖崩れ32ヶ所・その他12ヶ所	総雨量 352m/m 時間最大雨量 64m/m 災害本部設置 (7月23日17時～7月25日20時)
昭和62年7月2日 ～ 昭和62年7月3日	豪雨	浸水戸数30戸・農地浸水5.0ha ・道路被害8ヶ所・河川8ヶ所 ・農道8ヶ所・観光施設1ヶ所 ・崖崩れ7ヶ所・地すべり1ヶ所	総雨量 225m/m (7月2日14時～7月3日9時) 時間最大雨量 57m/m (7月3日0時～7月3日1時)

年月日	成因	被害概要	気象概要
昭和62年7月2日 ～ 昭和62年7月3日	豪雨	浸水戸数48戸・農地浸水5.0ha・ 道路被害8ヶ所・河川8ヶ所・ 農道8ヶ所・観光施設1ヶ所・ 崖崩れ7ヶ所・地すべり1ヶ所	総雨量 225m/m (7月2日14時～7月3日9時) 時間最大雨量 57m/m (7月3日0時～7月3日1時)

## 現況写真

浜添橋：下流側



ゆのしも橋：下流側



浜添橋：上流側



ゆのしも橋：上流側



7

## 現況写真

瑞穂橋：下流側



9橋：上流側



瑞穂橋：上流側



11橋：下流側



8

## 再評価に至った理由(1)

【工期完了】H31(前回)→H37(変更)



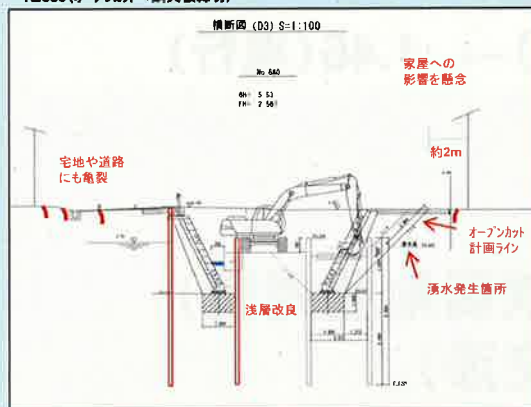
- ・ 国道橋架替えにおける支障物件の移設等の協議調整に期間を要した。
- ・ 上流部の用地買収及び補償等の交渉（多相続や相続不明等）に時間を要する。
- ・ 軟弱地盤地帯につき、慎重施工を要すると共に、人家連坦地区及び平行した市道の交通遮断を避けるよう、地元調整のうえ、一定区間を区切りながらの施工となり、集中施工・投資が困難なことから、完了工期の延長を行う。

9

## 再評価に至った理由(2)

【事業費増】19.0億円(前回)→29.0億円(変更)

№680(オープンカット→鋼矢板締切)



事業費増の内容	増額	主な増額理由
①軟弱地盤対策	約4.0億円	現地施工において、切土面からの湧水や亀裂が発生し、背後家屋への影響の恐れや地盤のゆるみによる宅地等の亀裂が発生したため、オープンカット工法から鋼矢板締切工法への変更や、地盤改良等の追加施工及び補償が必要となった。
②橋梁整備	約4.0億円	唯一の幹線道路であり、国道橋改修に伴う迂回路の整備及び支障物件の移転が必要となった。 (上水道、下水道、電気・電話・光ケーブル・TVケーブル、信号、バス待合所、住家等)
その他	約2.0億円	現地実施における、調査設計費用や数量変更等
計	約10.0億円	

10

**再評価に至った理由(3)**

**【事業費増】19.0億円(前回)→29.0億円(変更)**



事業費増の内容	増額	主な増額理由
①軟弱地盤対策	約4.0億円	現地施工において、切土面からの湧水や亀裂が発生し、背後家屋への影響の恐れや地盤のゆるみによる宅地等の亀裂が発生したため、オープンカット工法から鋼矢板締切工法への変更や、地盤改良等の追加施工及び補償が必要となった。
②橋梁整備	約4.0億円	唯一の幹線道路であり、国道橋改修に伴う迂回路の整備及び支障物件の移転が必要となった。 (上水道、下水道、電気・電話・光ケーブル・TVケーブル、信号、バス待合所、住家等)
その他	約2.0億円	現地実施における、調査設計費用や数量変更等
計	約10.0億円	

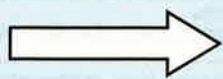
**費用対効果分析**

**【B/C】2.00(前回)→ 1.46(現行)**

**〔マイナス要因〕**

- ・全体事業費の増(軟弱地盤対策)
- ・工期の延長(用地交渉)

対応方針  
(原案)



**継続**



【事業の経緯】

別添資料1

河川-4 高田川河川改修事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (新規評価なし)	—	H5	—	—	—	
第1回審議 (H15)	事業採択後 10年経過	H5	H25	35.0	5.71	改修延長L=1,459m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第2回審議 (H20)	再評価後 5年経過	H5	H27	35.0	5.04	改修延長L=1,459m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第3回審議 (H25: 前回)	再評価後 5年経過	H5	H32	35.0	5.00	改修延長L=1,459m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等
第4回審議 (H30: 今回)	再評価後 5年経過	H5	H36	35.0	4.27	改修延長L=1,459m 河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等

チェックリストによる河川事業再評価項目

河川名	高田川	事業名	総合流域防災	事業区間	県道橋NO.1090～JR橋上流NO.2550 L= 1,459m
再評価の実施理由		再評価5年経過			
未着工或いは事業が長期化している理由		一部の地権者との用地交渉が難航していたため。			
事業内容	事業目的	洪水を安全に流下させうる河道整備を行い、河川の氾濫を防止する。			
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、護岸、橋梁等			
	上位計画における位置づけ	長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備などの防災対策の推進」			
	目標流量	70m <sup>3</sup> /s	治水安全度	1/20	
事業の進捗状況	事業採択年	平成5年度	用地着手年	平成5年度	工事着手年 平成5年度
	全体事業費 (内用地費)	35.0億円 7.9億円	投資事業費 (内用地費)	29.7億円(進捗率 84.9%) 7.5億円(進捗率 95.2%)	
	事業進捗状況	下流から約430m区間については、河川改修は完了し橋梁については、3橋の架け替え完了している。用地の取得は全体の90%が終了している			
	一連の整備効果の発現状況	改修済み区間では、目標流量の流下能力を確保している。			
事業に関する諸状況 事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業を促進し、早期完成を目指す。(平成36年度予定)			
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)				
	① 浸水戸数	: 21戸			
	② 農地浸水面積	: 0.16ha			
	③ 重要な公共施設等	: 特に無し			
	④ 災害弱者関連施設	: 特に無し			
	⑤ その他	: JR長崎本線、主要地方道長崎多良見線			
	過去の災害実績				
	① 主な災害年	: 昭和57年			
	② 最大浸水戸数	: 45戸(昭和57年)			
③ 最大農地浸水面積	: 2.7ha(昭和57年)				
④ 重要な公共施設等	: 特に無し				
⑤ 災害弱者関連施設	: 特に無し				
⑥ その他	: 不明				
災害発生危険度					
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 約30%				
② 現況の治水安全度	: 1/2程度(2k200)				
地域の状況	① 地域開発の状況	: 長崎市のベッドタウンとして、急速に都市化が進んでおり、交通アクセスの向上を目的とした都市計画道路高田線街路事業も進められ完成している。			
	② 地域の協力体制	: 特になし			
	③ 関連事業との整合性の変化	: 特になし			
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全の確保のため事業の早期完成が望まれている			
	⑤ 事業の状況	: 用地交渉が難航し時間を要したことにより、完成年度が平成32年度から平成36年度に延びた。			
費用対効果分析	治水経済調査マニュアル(案)に基づき分析				
	総便益(B):	28,771 百万円			
	総費用(C):	6,736 百万円			
	B/C=	4.27			
再評価による今後の対応方針	事業継続				

平成30年度  
長崎県公共事業評価監視委員会

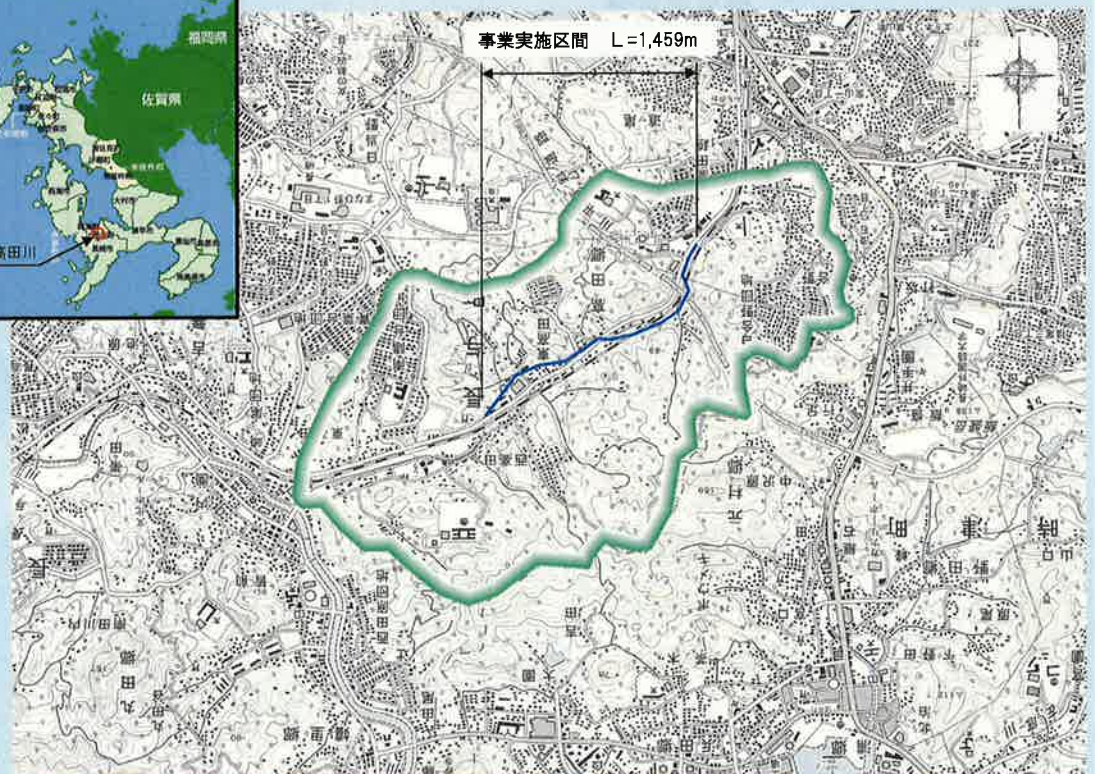
再評価対象事業

河川-4 総合流域防災事業  
高田川

長崎県

1

位置図



2

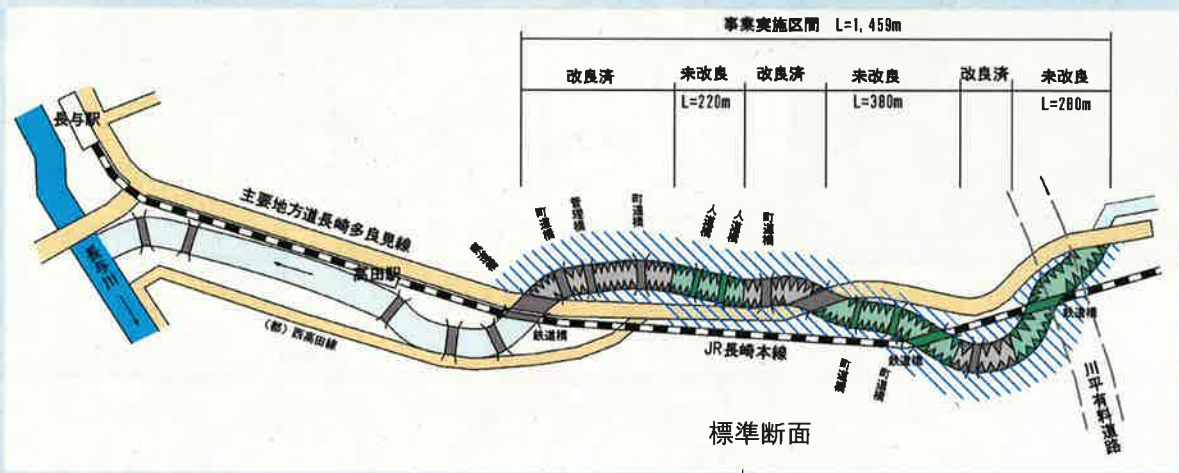
# 事業概要



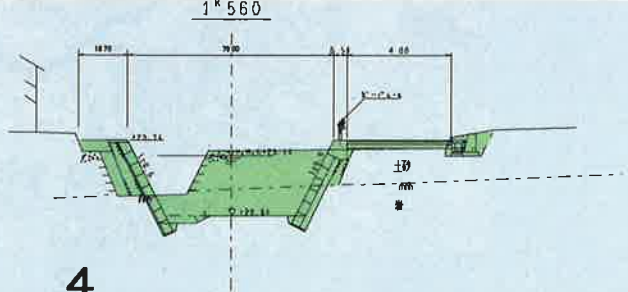
3

# 事業概要

工事延長 L=1,459m  
 河道拡幅、河床掘削、護岸整備  
 橋梁架替等



- 改良済区間
- 未改良区間
- 氾濫区域



4

# 過去の被災写真

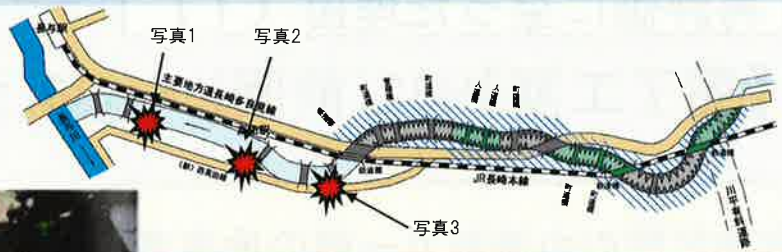


写真1



写真2



水害発生時の気象

写真3

年月日	最大日雨量 (mm/日)	最大時間雨量 (mm/h)	備考
S57.7.23	527mm	127.5	浸水家屋棟数 45戸

# 現況写真



1k200付近 (改修済)



1k420 付近 (改修済)



2k000付近 (未改修)



2k380付近 (未改修)

## 再評価に至った理由（1）

【完了工期】H32（前回）→H36（変更）

実施区間の中流部で一部の地権者と用地交渉が難航していたが、昨年度末にようやく契約となった。  
しかし、交渉期間が長期となり、完成年度が平成32年から平成36年度に延長となる。



7

## 費用対効果分析

【B/C】5.00（前回）→ 4.27（現行）

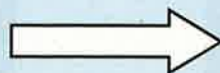
### 〔マイナス要因〕

- ・工期の延長（用地交渉）
- ・事業所資産の評価単価の低下と従業員数の減少

### 〔プラス要因〕

- ・家屋資産の評価単価の増加

対応方針  
（原案）



事業継続

8

【事業の経緯】

別添資料1

河川-5 仁反田川 総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H14河川整備基本方針)	-	S58	H17	30.0	1.29	改修延長L=900m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等
第1回審議 (H15)	社会情勢 の変化	S58	H22	30.0	1.12	改修延長L=900m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等
第2回審議 (H20)	再評価後 5年経過	S58	H25	30.0	1.24	改修延長L=900m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等
第3回審議 (H25)	再評価後 5年経過	S58	H30	30.0	1.07	改修延長L=900m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等
第4回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	S58	H42	35.0	1.74	改修延長L=900m 河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等

チェックリストによる河川事業の再評価項目

河川名	仁反田川	事業名	総合流域防災	事業区間	河口～国道57号線上流 L=900m	
再評価の実施理由			再評価後5年経過			
未着工或いは事業が長期化している理由			鉄道橋の架替工事に伴う関係者との調整に期間を要したため			
事業内容	事業目的	洪水に対して安全な河道を確保し、河川の氾濫を防止する				
	事業実施内容	河道拡幅、河床掘削、築堤、護岸、水門、橋梁等				
	上位計画における位置づけ	長崎県総合計画チャレンジ2020 9-(4)-5「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた施設整備などの防災対策の推進」				
	目標流量(茂ノさえ橋地点)	110m <sup>3</sup> /s	治水安全度		1/30年	
事業の進捗状況	事業採択年	昭和58年度	用地着手年	昭和59年度	工事着手年	昭和59年度
	全体事業費(内用地費)	35.0億円 (0.1億円)	投資事業費(内用地費)	19.1億円(進捗率54.6%) 0.1億円(進捗率100%)		
	事業進捗状況	河口から島原鉄道橋までの河道整備及び河口水門改築が完了しており、残工事は島原鉄道及び国道57号線の橋梁架替等である。				
	一連の整備効果の発現状況	河口から島原鉄道橋下までは、計画の流下能力を確保している。				
事業を巡る社会情勢等の変化	現状での課題	事業の促進に努め、早期完成(平成42年度予定)を目指している				
	災害発生時影響(想定氾濫区域内)					
	① 浸水戸数	: 49戸				
	② 農地浸水面積	: 94ha				
	③ 重要な公共施設等	: 下水道処理場、工営住宅、排水機場、保険センター				
	④ 災害弱者関連施設	: 特になし				
	⑤ その他	: 国道57号、島原鉄道				
	過去の災害実績					
	① 主な災害年	: 昭和57年、昭和63年、平成3年、平成5年、平成9年、平成12年				
	② 浸水戸数	: 94戸(昭和57年)				
③ 農地浸水面積	: 500ha(昭和57年)					
④ 重要な公共施設等	: 排水機場(昭和57)					
⑤ 災害弱者関連施設	: 特になし					
⑥ その他	: 国道57号。島原鉄道(昭和57年)					
災害発生危険度						
① 改修目標流量に対する現況流下能力の割合	: 20%					
② 現況の治水安全度	: 1/1以下					
地域の状況	① 地域開発の状況	氾濫域内を通る国道57号は、現在「森山拡幅」事業により2車線道路の工事が行われている。				
	② 地域の協力体制	: 諫早市が積極的な協力を行っている。				
	③ 関連事業との整合性の変化	: 特になし				
	④ 地域の事業に対する社会的評価	: 洪水氾濫被害に対する安全度の確保のため事業の早期完成が望まれている。				
	⑤ 事業の状況	: 鉄道橋の架替工事に伴う関係者との調整に期間を要し、完了工期をH42まで延長する。				
	費用対効果分析	治水経済調査マニュアル(案)改定(平成17年4月)に基づき分析				
	総便益(B):	10,026.31 百万円				
	総費用(C):	5,767.53 百万円				
	B/C=	1.74				
再評価による今後の対応方針		事業継続				



# 平成30年度 長崎県公共事業評価監視委員会

## 再評価対象事業

### 河川-5 総合流域防災事業 仁反田川

長崎県

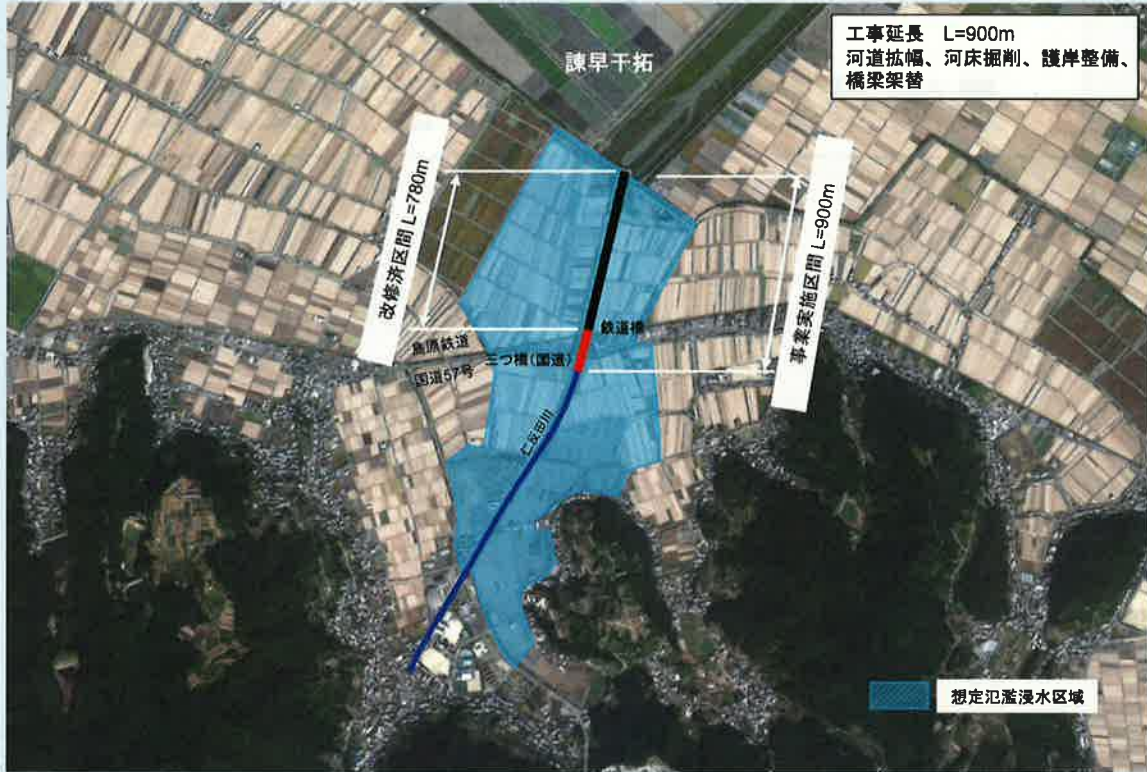
1

#### 位置図



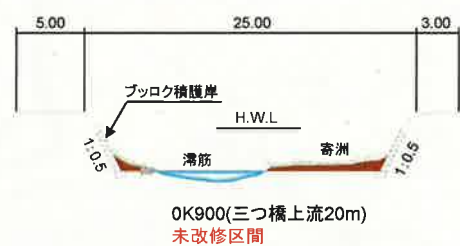
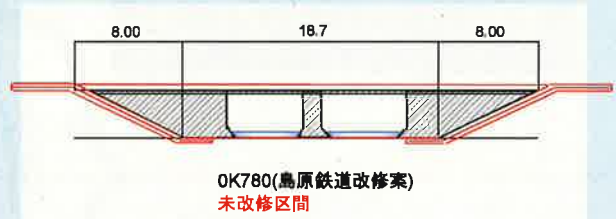
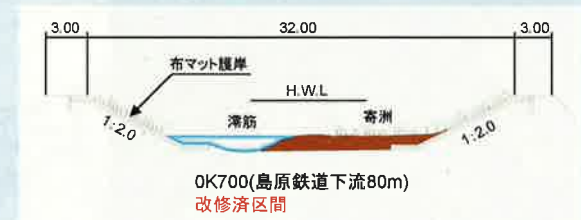
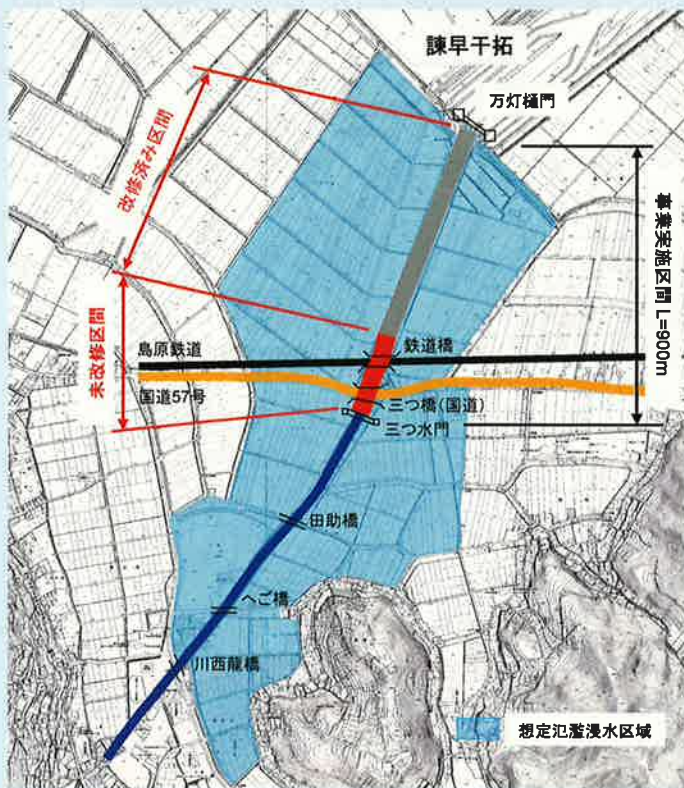
2

# 事業概要



3

# 事業概要



4

# 過去の被災写真

## 浸水状況（平成9年7月洪水）



国道より上流（右岸）



川西龍橋より下流



田助橋より下流

生起年月日	諫早観測所 (氣)雨量		浸水面積 (ha)	浸水 家屋数 (戸)
	総雨量 (mm)	1時間 (mm/h)		
昭和57年7月23日 昭和57年7月24日	464	99	500	94
昭和63年5月3日 ～ 昭和63年5月4日	188	87	12.18	30
平成3年6月30日 ～ 平成3年7月1日	179	49	1	19
平成5年8月19日 平成5年8月20日	117	32	0.02	2 (半壊)
平成9年7月6日 ～ 平成9年7月11日	678	32	0.16	30

# 現況写真



0k000付近

現況川幅約15m 計画川幅約35m



鉄道橋

0/780付近(鉄道橋付近)



0k600付近

現況川幅約13m 計画川幅約25m

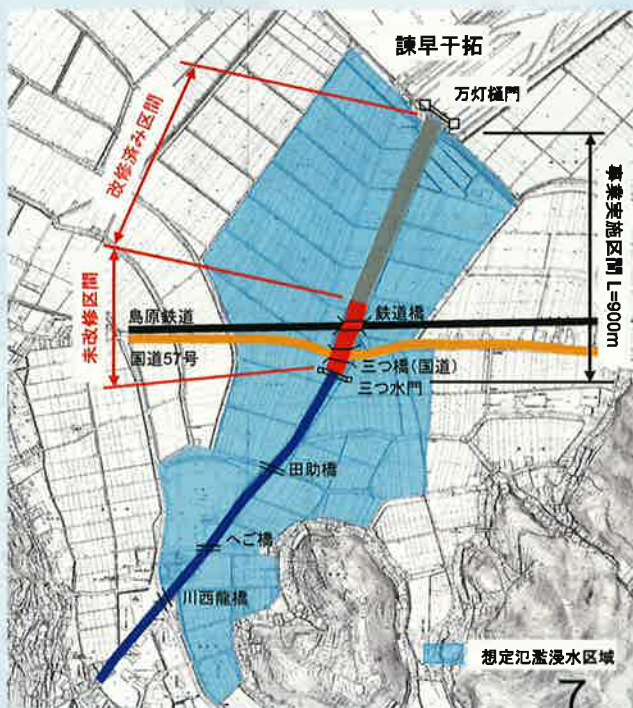


三ツ橋

0/850付近(三ツ橋(国道)付近)

## 再評価に至った理由（1）

【完了時期】 H30（前回） → H42（変更）



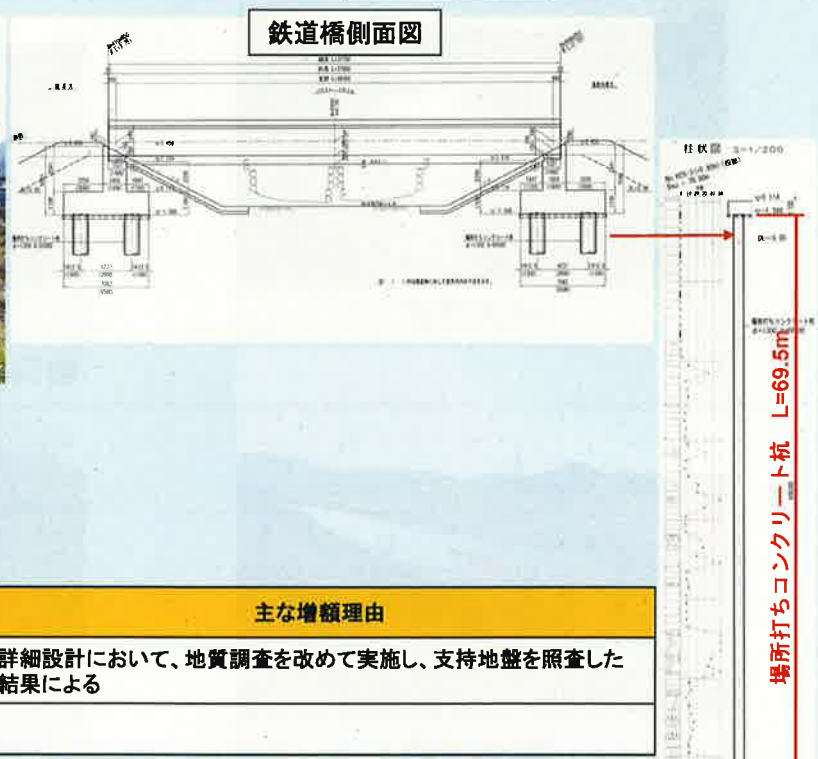
鉄道橋の架替工事に伴う関係者との調整に期間を要するため



## 再評価に至った理由（2）

【事業費増】 7.0億円（前回） → 12.0億円（変更）

現況川幅約15m 計画川幅約35m



### 〔事業費増の主な内容〕

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①軟弱地盤対策	約5.0億円	詳細設計において、地質調査を改めて実施し、支持地盤を照査した結果による
合計	約5.0億円	

## 費用対効果分析

【B／C】 1.07（前回） → 1.74（現行）

〔マイナス要因〕

- ・ 事業費の増加（軟弱地盤対策）
- ・ 工期の延長（関係者との調整）

〔プラス要因〕

- ・ 事業所資産の増加（事業所数、従業員数、単価の増加）

